



荒尾市水泳協会副会長 水泳指導員

桑原章三郎さん

くわはら・しょうざぶろう 1927年生まれ、岱洋中在任。専門は平泳ぎ。趣味は18歳のときから続けているクラシックギター。得意な曲は「禁じられた遊び」。

「水泳と子どもが大好きなので、水泳指導員の仕事は天職です」と、笑顔を見せるのは、荒尾市の初心者水泳教室で夏の間、42年にわたり指導に携わってきた桑原章三郎さんです。

昭和47（1972）年、荒尾市民プールが完成し、誰でも気軽に泳ぐことができるようになりました。当時、炭鉱マンとして働いていた桑原さんは、若い頃からの趣味の水泳を20年振りに再開し、子どもたちに水泳を教え始めます。

「楽しみながら水に慣れるところからスタートしています。厳しいことは言わず、子どもの自主性に任せているので、子どもたちが自分で目標を立てて頑張ってくれています」

水泳教室に来る子どもたちは最初は泳げない子がほとんどです。しかし、基礎練習を徹底することで、ひと夏の間にも多くの子どもたちが100m泳げるようになります。

子どもの伸び具合や性格に合わせて教えることに難しさを感じることもありますが、それ以上に「先生、泳げるよ

うになったよ！」の一言がうれしくてたまらないそうです。涙もろい桑原さんは子どもたちと一緒に涙を流して泳げる喜びを分かち合っていました。

「教えるときは、子どもの頃の気持ちに戻るようにしています」大人と子どもではなく、人として一対一で子どもたちに向き合いたいという桑原さん。小学生のときに通っていた水泳教室で初めて泳げたときのことや楽しかった思い出を今でも鮮明に覚えています。

「子どもたちから慕われると、少しくらいきつくても頑張れるんです」桑原さんは交通指導員※を30年ほど務めていることもあり、地域でも子どもたちに親しまれてきました。ことし、87歳を迎え、体力的につらいときもあります。が、いつも子どもたちの笑顔にパワーをもらっています。

「いつまでも今まで通り、楽しく水泳を教えていきたい」と、生涯現役を宣言。これからも泳ぐ喜びを伝えるため、桑原さんは子どもたちと共に泳ぎ続けます。

※子どもたちが安全に登校できるように横断歩道などで指導を行うボランティア。



1. 昨年、水泳指導員としての活躍が認められ、ミズノスポーツメントール賞を受賞しました。2. 親子3代に水泳を教えたこともあります。3. 毎年、大好評の水泳教室。4. 平成21年、熊本県歯科医師会賞を受賞。健康な歯と水泳が桑原さんの元気の秘けつです。